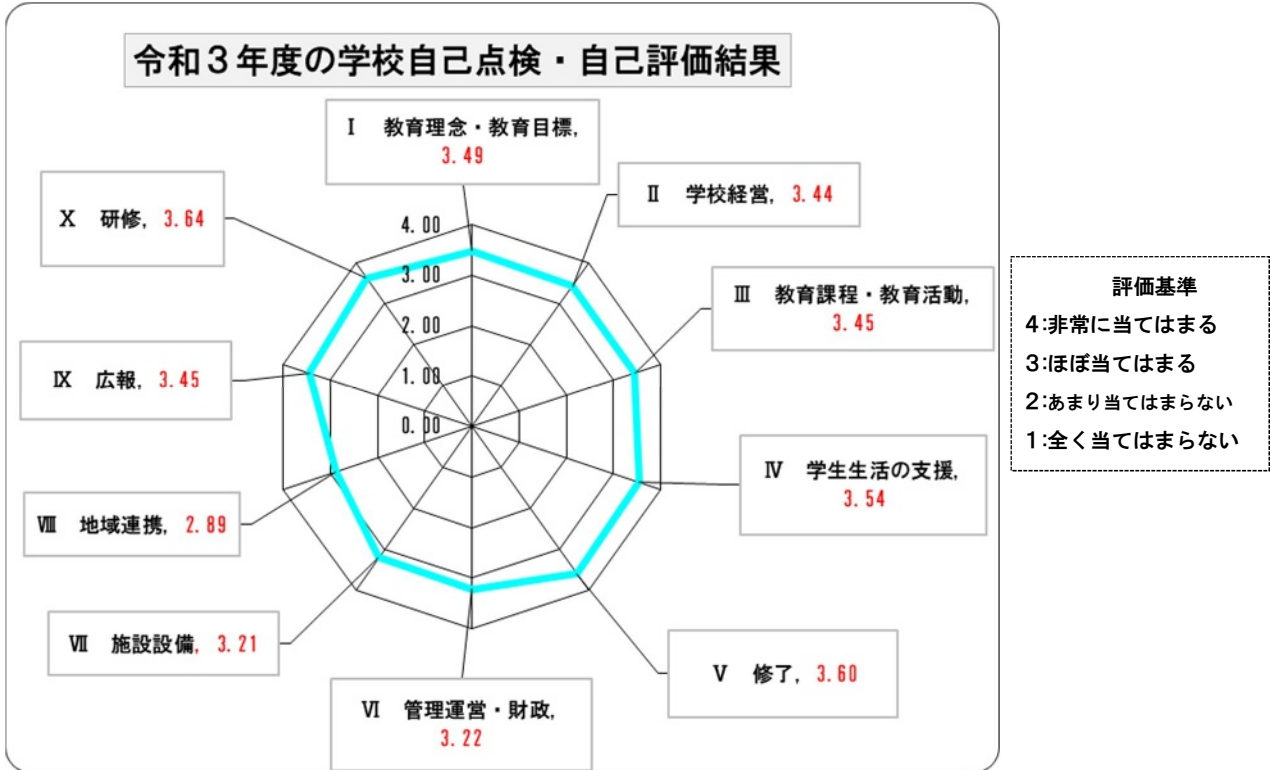


## 令和3年度の学校自己点検・自己評価

本校では、教育の質向上と将来の発展に向けて、教員による学校自己点検・自己評価に取り組み、「教員による学校自己点検・自己評価」、「学生による授業評価、実習評価」を実施しております。

今回、令和3年度の実施結果を報告します。



領域ごとの細項目

領域ごとの細項目		領域ごとの細項目	
カテゴリー		カテゴリー	
I 教育理念・教育目標	教育理念	III 教育課程・教育活動	単位認定の公平性・妥当性
	教育目標		インシデントの把握・分析
II 学校経営	目標の策定	IV 学生生活の支援	実習指導の役割分担と協同
	組織体制		学生による授業評価
	学校評価の実施		学生への配慮
	評価内容など公表		心身の健康管理
	会議の開催と機能	学生相談の実施	
III 教育課程・教育活動	教育課程の評価	V 修了	経済的支援
	教育課程の評価		修了後の状況把握と支援
	シラバスの妥当性		VI 管理運営・財政
	授業担当者の妥当性	施設設備・教材の妥当性	
	指導方法・内容の妥当性	VII 施設整備	厚生設備の整備
	国家試験対策		VIII 地域連携
	実習環境・実習体制への妥当性	IX 広報	学校広報活動
	単位認定の公平性・妥当性	X 研修	研修

## I. 教育理念・教育目標

教育理念・教育目標は一貫性があり教育活動指針を明示しています。本校の教育の考え方について、学生には折に触れて、添削指導員ならび臨地実習指導者等には会議等を通じて周知を図っています。教育目標は科学的根拠に基づいた判断力、問題解決能力を養い、主体的に学べるように各分野の教育内容に具体的に示され実施しています。また、修了時点において持つべき資質については期待する卒業生像として明示しています。

## II. 学校経営

学校経営は、公益財団法人慈愛会を母体として健全に運営されています。学校運営については、学校運営会議や職員会議、教員会議にて運営方針を決定し、意思決定システムは有効に機能しています。令和3年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図り、十分な教育が提供できるように年間スケジュールを変更し運営しています。

課題に対する協議や情報共有を行い、構成員の意見が反映されるように整えています。自己点検・自己評価については目標の維持・改善につながるように機能し、結果は公表しています。添削指導員会議ならびに臨床指導者会議は計画的に実施しています。

## III. 教育課程・教育活動

教育課程の考え方は教育理念・教育目標と整合性があり、教員への育課程の周知がなされています。教育課程は明確な考え方と根拠をもって編成し、カリキュラムに準じ、学生の看護実践力を把握・評価した上で個別の状況に合わせた教育内容となっています。シラバスは一貫性をもって段階的に順序性に沿って構築され、学習への動機付けとなっています。授業内容は授業形態（印刷教材による授業、面接授業、臨地実習、放送授業）に応じて学習が深化、発展するための方法を支援し、問題解決能力・判断力・応用力を高め、主体的な学びと意欲によって看護実践力の育成が強化されています。臨地実習（病院見学実習）はオリエンテーション時に安全教育・安全対策や感染防止対策について説明し、実習施設との役割を明確にして指導体制の連携を計画的に図りながら学習を支援しています。また、学生の実習環境アンケート評価を指導の向上に活用しています。

教員の専門性を活かし、教育力を発揮できるよう体制を整え、一貫性をもたせた学習支援や学習過程を指標化したアンケート評価により授業構築に生かし、教育内容の充実につながるよう支援しています。学習環境として設備や演習モデルの充実など、教育効果を上げるよう対応しています。また、防災規程、防災マニュアルの整備、教員の避難訓練、学生への指導をおこなっています。

教育効果については問題解決能力や健康教育における効果的なコミュニケーション技術について強化した授業内容により考える力が身についた看護につながっています。

国家試験対策は本校の傾向を分析し、国家試験合格に向け知識の定着を図っています。

評価は学生に評価基準、単位履修、成績評価を公表し、学習の動機付けとなるよう支援しています。修了後、放送大学での履修を継続し、学士取得を目指すよう説明をしています。

## IV. 学生生活の支援

学生の学修面、健康面を含めた相談・支援体制は担当教員を中心に連携を深め、対応できるように整備しています。また、経済的な支援として専門実践教育訓練給付制度申請を支援しています。

面接授業については宮崎県会場での授業やオンライン授業を継続し、遠方学生の学習支援を行っています。

## V. 修了

修了に向けて、未取得科目のある学生については担当科目の教員を中心に学習支援を強化しています。その結果、全員単位取得でき、在籍学生全員が修了、令和3年度は修了率100%を達成しています。同時に看護師免許取得を目標に支援しています。

## VI. 管理運営財政

令和3年度は1学年のみとなり教職員の財政面への意識が向上し、業務のスリム化やペーパーレスに貢献しています。また、コロナの感染状況の収束がみえないため、オンライン授業や学内実習、感染対策など多くの環境調整・整備は継続して行っています。健全に管理運営を実施しています。

## VII. 施設設備

学校施設はハード面の制約の中で学習環境や校内美化等に努め、整備しています。

専門職教育に必要なビデオ教材や図書教材を購入し、講義等に活用しています。感染拡大防止による移動制限のため、学生のニーズを捉えながらWi-Fi環境を増やすなど環境整備や情報発信（Team、Lineなど）等、学習環境の整備を進めています。

## VIII. 地域連携

南九州地域の看護職を対象とした教職員のキャリアをいかした3講座（看護研究の入門講座、コンチネンス入門講座、乳房管理基礎講座）を実施し、地域との連携を図っています。

校舎周辺の美化活動などボランティア活動を行い、地域に貢献しています。

## IX. 広報

本校のホームページの更新を随時行い情報発信しています。すみれ通信に修了生のメッセージの掲載や施設で就労している修了生の活躍も広報活動の一助を担ってくれています。

## X. 研修

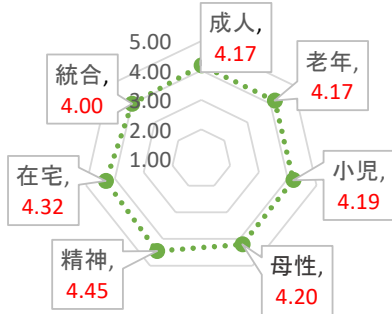
教員はe-ラーニングを中心にそれぞれ自己研鑽に励んでいます。また、研修等に参加し他教員へ伝達講習を行うと共に、学生に対しても最新の知見を考慮した講義を実践しています。教育内容や方法についてアンケートを実施し、分析した内容を院内学会において口演発表しています。慈愛会にて「心に届く慈愛の看護」のエッセイ集に入賞しています。また、看護教員キャリアラダーに取り組み、教育・研究活動、自己成長を支援する環境および体制が整備されています。研修、自身のリフレクション、自己啓発を通して指導力向上が図られています。

## まとめ

令和3年度の学校自己点検・自己評価を10領域4段階の評価基準で評価しています。結果は全体平均3.4で、昨年より0.19上昇しています。教職員が真摯に取り組んだ結果と考えます。【Ⅷ地域連携】は2.89と評価が低く、【Ⅰ教育理念・教育目標】【Ⅱ学校経営】【Ⅲ教育課程・教育活動】【Ⅳ学生生活の支援】【Ⅴ修了】【Ⅵ管理運営財政】【Ⅶ施設設備】【Ⅸ広報】【Ⅹ研究・研修活動】については3.0以上となっています。

## 学生による授業評価の結果

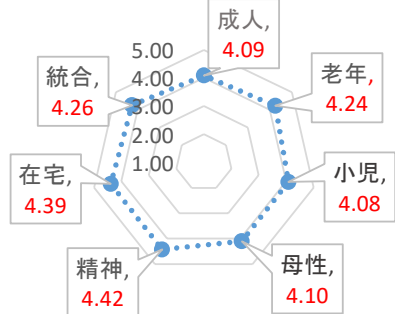
### 面接授業



#### 評価基準

- 5 : とてもそう思う
- 4 : そう思う
- 3 : どちらともいえない
- 2 : そう思わない
- 1 : 全くそう思わない

### 病院見学実習



#### 病院見学実習評価

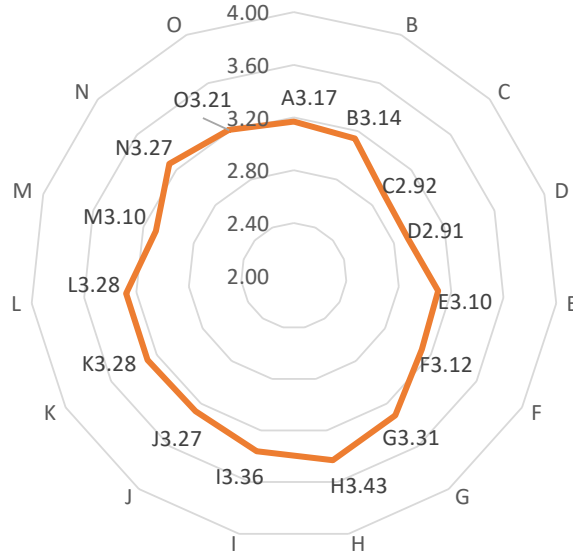
- ①学生の実習に臨む姿勢(7項目)
  - ②実習指導者(6項目)
  - ③実習内容(4項目)
- 評価項目3領域17項目  
自由記載

#### 面接授業評価

- ①学生の授業への取組み(3項目)
  - ②教員の授業の進め方(6項目)
  - ③教員の授業内容(3項目)
  - ④総合評価(1項目)
- 評価項目4領域13項目  
自由記載

「面接授業」評価は平均 4.2 を示し、授業の内容、進め方に対して取り組みはよく、各専門分野の学びが深められています。「病院見学実習」評価は平均 4.2 を示し、実習への取り組み、指導内容等の評価は高いが、成人看護学実習・母性看護学実習・小児看護学実習において若干低く、病院施設の差がみられています。

## 「卒業時の到達目標」



- A. 対象理解
- B. 健康の保持増進・疾病の予防
- C. アセスメント
- D. 計画
- E. 急激な健康状態変化にある対象への看護
- F. 慢性的な変化にある対象への看護
- G. 終末期にある対象への看護
- H. 倫理的な看護
- I. 看護専門職の役割
- J. 安全なケア環境の確保
- K. 援助的関係の形成
- L. 保健医療福祉チームにおける看護師及び他職種との機能役割を理解する
- M. 保健医療福祉システムにおける看護の役割
- N. 継続的な学習
- O. 看護の質の改善に向けた活動

#### 評価基準

- 4 : できた
- 3 : ある程度できた
- 2 : あまりできない
- 1 : できない

全項目評価のほとんどが3レベル以上を示し、修了時に到達しなければならない能力は養われています。「終末期にある対象への看護」「倫理的な看護」「看護専門職の役割」が高く、看護専門職者として自覚と責任を持ち、倫理に基づいた能力面の成長がみられます。「アセスメント」「看護計画」は低く、看護過程の展開の強化が課題となっています。